



ともに生きようーネットワーク  
大塚恵美子

質問項目

◆子どもが自己肯定感をもって育つための環境の整備について

**学習支援にとどまらぬ「希望の連鎖」を！**  
生活困窮者自立支援事業のうち、学習支援事業「デスク」の具体的な成果をどのように捉えているか。

**進学希望であった中学3年生全員が高校進学を果たしている。**  
6人に1人が貧困の状態にあるのは見過ごせない。中学校で完全給食を行うべきだと思うが考えを伺う。

**用方式にしている。**  
生活保護を受けている世帯と受けていない世帯の不登校率に差はあるのか。関連はあるか。

**子どもの貧困はあらゆる分野にわたる問題である。**学習支援事業は子どものニーズに対応できたが、それだけで良いのか。



ともに生きようーネットワーク  
白石えつ子

質問項目

◆子どもの視点上に立ったインクルーシブ(排除しない)教育を  
◆不登校状態にある児童・生徒に学ぶ権利を

**発達障がいへの支援は子どもの視点で**  
小・中学校で個別教育支援計画を作成している児童・生徒の人数とその割合を伺う。

**現在に予定しているが、今後検討したい。**また、子どもの視点に立った支援ができるよう、地域の方々への理解・啓発を進めていき

**健全育成学習室「希望学級」について**  
27年度、希望学級に通級している児童・生徒は何人か。

**「リース」という制度がある。**都との連携や市独自の取り組みがあれば何う対象となる方から相談があった場合、この制度を紹介し、登録を勧めている。連携についてはアドバイザリースタッフや研修会への講師派遣の要請、教育相談担当者の連絡会などを行っている。



自由民主党市議団  
土方 桂

質問項目

◆当市のオリンピック・パラリンピック教育について  
◆立休交差事業の進捗と駅周辺まちづくりについて

**オリパラから始まる心と体の教育**  
都では、オリンピックを契機に外国語教育を推進するとしているが、当市の小学校教育ではどのような施策を考えているのか。

**事前キャンプ招致の進捗状況について伺う。**  
全国知事会が開設した事前キャンプ誘致専用のデータベースサイトに「市民スポーツセンター」を登録した。また、都が開設する同様のサイトにも登録する予定である。

**市民の憩いの場所になる東村山駅を目指して！**  
連続立体工事を完了後、東村山駅の発車メロディを復活して欲しいが、現在の扱いと復活するためには何が必要か伺う。

**連続立体交差事業が完了する10年近く先の状況は不透明な部分も多いが、東村山駅周辺の利便性の向上、賑わいの形成を目指し、多くの方に意見を伺いながら進めていきたい。**



自由民主党市議団  
石橋 博

質問項目

◆定着した2学期制をなぜ、3学期制に戻すのでしょうか  
◆西宿通り大踏切からバス通りまでの歩道整備を

**教育委員会の見解を明確に！**  
各学校の創意工夫により2学期制のメリットを最大限活用し、2学期制を定着させてきた。3学期制に戻すことが決まったと聞くが、2学期制の課題解決を優先すべきだと思う。再び、3学期制に戻すメリットは何か伺う。

**長期休業前に児童・生徒や保護者に通知表を提示すること**で、学習状況をより具体的に確認でき、学習計画が立てやすくなる。中学生にとっては評価の回数が増えることで、進路選択の際に多くの資料から検討することが可能となる。また、学期の節目を設けることで気持ちを切

**通学路の安全確保を！**  
西宿通り大踏切までの歩道が整備された

**が、バス通りまでの歩道整備は遅れている。**せめて東京都にグリーン塗装の働きかけはできないのか考えを伺う。



自由民主党市議団  
熊木 敏己

質問項目

◆熊本地震を考慮し東村山市の防災を考える

**熊本地震を教訓とし、市の防災体制の見直しを**  
余震で家にいるのが怖い、被災したが避難所には行きたくない、ペットを飼っている等の理由で車中泊を選ぶ避難者がある。公共施設の駐車場や道路わきに車を停めた車中泊者の安否確認が新たな課題となっている。車中避難者カードの

**作成等を地域防災計画や避難所運営ガイドラインへ盛り込む必要がある**と考えるが、いかがか。

**東村山市地域防災計画の中には災害時の協定を結んでいる他市が掲載されている。**しかし、熊本県合志市などのハンセン病療養所の所在地である11市町がこの協定に入っていないのはなぜか。

**東日本大震災の際、協定を締結しているケースのみを掲載している。**



公明党  
石橋 光明

質問項目

◆「公共の緑の植生管理」の財源確保をせよ  
◆自治体間の災害時相互応援協定の拡大と見直し

**「公共の緑の植生管理」の財源確保の考え方は**  
ガイドラインを作ったのは緑を守るという意気込みの表れだと思いう。緑を大切にしたいという声は多くの市民の声である。そのための基金について具体的な検討に入るとのことであるが、財源確保について市長はどのように考えて

**いるのか。**  
植物は老齢化で危険な状態になることがある。仮に伐採して植え替えるとなると相当の費用がかかる。財源の確保については27年度決算の状況等を踏まえ、来年度に向けて現在ある基金を見直し、保全の方に振り分けるのか、新たな基金を創設するのか検討

**したい。**  
ご縁のある遠隔地の自治体と協定を結ぶべき

**援内容の見直しが必要と考えるが見解を伺う。**  
遠隔地については環境安全 都道府県間の協定により応援がなされるがこれらの自治体と協定を結ぶことも効果的であると考える。姉妹都市の柏崎市以外で当市と関係のある自治体の有無や、協定の締結が可能かどうかを検討したい。

